

中学生・保護者のみなさんへ

発展的統合により 魅力と活力ある高校づくりをすすめます

兵庫県教育委員会では、令和4年3月に「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を策定しました。①学科改編等による魅力・特色づくりの推進、②発展的統合による望ましい規模の確保、③入学者選抜制度の工夫・改善により、魅力と活力ある高校づくりを進めます。

県立高等学校教育改革
第三次実施計画



令和7年度に実施する発展的統合

複数の学校の特色・伝統を引き継ぎ、さらに発展させる「発展的統合」により、学校の規模を大きくして、より多くの友人・教職員とのふれあいの中で、生き生きと高校生活を送ることができる教育環境を整えます。

学区別対象校

第1学区	神戸北・神戸甲北	伊川谷・伊川谷北
第2学区	西宮北・西宮甲山	
第3学区	三木北・三木東・吉川	
第4学区	姫路南・網干・家島	福崎・夢前

記者発表資料

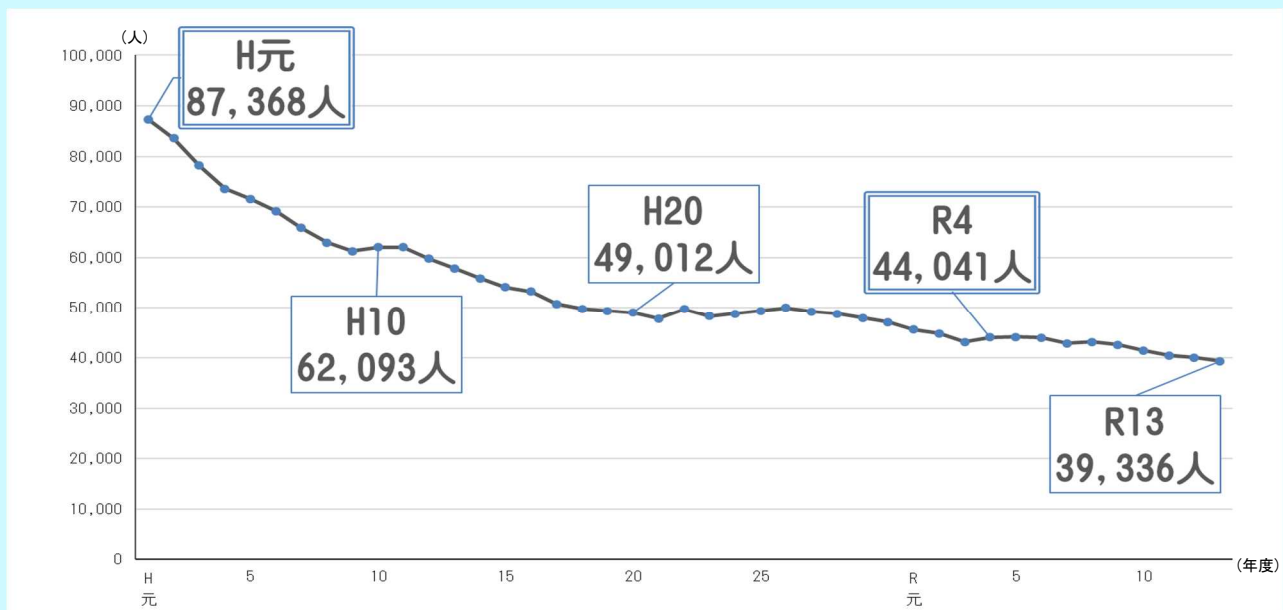


発展的統合までのスケジュール

令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度
新しい高校の 特色・設置場所 の公表	新しい高校の 学校名・設置学科 の公表 対象校は令和6年度入学者選抜まで これまでどおり募集を行います。 現中学2・3年生		新しい高校として 募集を行います。 現中学1年生

国・公立中学校卒業生数と県立全日制高等学校数等の推移

●国・公立中学校卒業生数(R5以降は見込者数)



●平成元年以降の状況の変化

	平成元年3月	令和4年3月	
国公立中学校卒業生数	87,368 人	44,041 人	R13推計 39,336人で、以降、更に減少の見込み 約 30 年間、学校数はほぼ維持 各校平均3～4学級減少し、小規模化が進行
県立全日制高等学校数	128 校	125 校	
第1学年の平均学級数	8.9 学級	5.3 学級	

発展的統合に関するQ & A

Q 学級数が増えること以外に、発展的統合のメリットはありますか？

学校の規模が大きくなると、配置できる教職員数も増えるので、多くの選択科目で専門の教員による充実した指導が受けられるなど、多様な学びが展開できます。また、生徒数が増えることで、これまで以上に、活気ある学校行事や活発な部活動が展開できます。

Q 発展的統合によって統合対象校はなくなってしまうのですか？

統合対象校それぞれの特色や伝統を引き継ぎ、新しい高校をつくります。

Q 学校数が減ると、高校に入学しにくくなるのではないですか？

学区ごとに必要な学級数は、これまでと同様、中学校卒業生数に応じて確保しますので、高校に入りにくくなるということはありません。

Q 学級数が少なくなると、どんな支障があるのですか？

高校教育に必要な選択科目の設置などによる多様な学びの展開、活気ある学校行事や活発な部活動などの維持が難しくなります。

Q 30人学級などの少人数学級にすれば、統合しなくても良いのではないですか？

少人数学級にしても、学校全体の生徒数が増えなければ、活気ある学校行事や活発な部活動などの維持は難しくなります。また、配置できる教職員数は増えないので、多様な学びを展開することも難しくなります。